

記者発表（配付）資料

平成23年4月19日

所属部課	館 長	副 館 長	統括学芸員	担当	連絡先
萩博物館	湯本重男	樋口尚樹	清水満幸	清水満幸	25-6447

件 名	企画展「萩・北浦のクジラ文化 ー西日本最大捕鯨漁場の軌跡ー」の開催について
-----	--

萩・北浦地域は、古来、たくさんのクジラが寄り来る地域でした。人々は、クジラがもたらす恵みを享受しながら暮らしてきました。

本展覧会では、「クジラが明治維新の立役者だった」、「萩・北浦地域の人々がクジラによって生かされてきた」、「クジラに関わる歴史文化が今も息づいている」といった視点で、萩・北浦地域のクジラ文化を再発見することができる資料を多数紹介します。

1. 会 期 : 平成23年4月23日（土）～平成23年6月19日（日）
※会期中無休
2. 会 場 : 萩博物館 企画展示室（山口県萩市堀内 355 TEL0838-25-6447）
3. 開館時間 : 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 開 会 式 : 4月22日（金）15時00分から（30分程度） 終了後に内覧会
※プレス取材は14時から開始いたします。
5. 観 覧 料 : 大人 500 円、高校・大学生 300 円、小・中学生 100 円
【団体割引】20 名以上 20%引 【障がい者割引】20%引
6. 展示資料数 : 約120点
7. 主要展示資料 : ①、⑥、⑦については別紙画像添付

① 「ミンククジラ全身骨格標本」

体長約8メートルの雄のミンククジラ。2008年の釧路沖鯨類捕獲調査において捕獲。
（財）日本鯨類研究所より骨格を受贈し、昨年度末に標本化。雄の成体骨格標本としては最大級。

② 「アメリカ捕鯨船によるマッコウクジラ・セミクジラ捕獲位置図」

18～20世紀の米国捕鯨船操業を示す資料。明治維新のきっかけとなったペリー来航の目的の一つが、捕鯨船への補給地を求めてであったことが良く分かり、箱館開港の理由も見えてくる。

③ 「鯨油により害虫駆除を行っていたことを伝える民俗資料・ポンボラ」

1950年頃まで県下で用いられていた油を入れる竹筒。田に鯨油を撒き、稲を揺すって害虫を落として溺死させたり、油膜を張った水を稲に掛けたりして害虫を駆除した。「注油法」と呼ばれる駆除法で、江戸時代に開発された。

④ 「萩・北浦地域の伝統捕鯨において、かつて用いられていた捕鯨用具」

捕鯨浦として栄えた通・川尻に伝わる捕鯨用具（鉾・剣・包丁など15点）に加え、この度新たに確認された見島・須佐に伝わっていた用具3点を展示。萩・北浦地域で広く行われた伝統捕鯨の貴重資料。

⑤ 「日本近代捕鯨草創期の資料・クジラヒゲ絵馬」

明治32年（1899）、阿武郡福井下村の岡家を継いだ岡十郎が、日本で最初期にノールウェー式捕鯨法を導入した近代捕鯨会社を創設し。近代捕鯨草創期の捕鯨船を描いた奉納絵馬が伝わる。萩・北浦地域の人々は、永く日本近代捕鯨を牽引した。

⑥ 「萩浜崎港で製造されていた『くじら日本煮（大和煮）』缶詰のラベル」

日露戦争における軍の糧食として、「くじら日本煮」缶詰が萩においても盛んに製造されていたことを示す資料。岡十郎が創設した近代捕鯨会社が韓海において捕獲した鯨肉が用いられた。

⑦ 「鯨食普及ポスター・余すところなくクジラが利用されたことを示す製品類（鯨筋ラケット・蠟燭・石鯨など）」

昭和30年代の鯨食普及ポスター（7点）を始め、鯨筋ガットを張ったテニスラケット、意外な食品や工業製品多数（10点余）

※主要展示資料の写真データを提供いたしますので、ご入用の際はお申し出ください。

9. ギャラリートーク : 5月7日、21日、6月4日（いずれも土曜日） 午後2時～3時

学芸職員が展示内容を解説します。

無料（ただし別途観覧料が必要）

定員約20名（申し込み不要、当日開始5分前までに企画展示室入り口に集合）

※ 展示期間中、東日本大震災の大津波で壊滅的な被害を受けた捕鯨基地「鮎川」（宮城県石巻市鮎川浜）の復興を支援する義援金を募集します。本展覧会では、鮎川浜にある日本鯨類研究所の実験場からクジラの資料を借用し展示する予定でしたが、建物ごと流されてしまいました。

展示物画像

① 「ミンククジラ全身骨格標本」



⑥ 「萩浜崎港で製造されていた『くじら日本煮（大和煮）』缶詰のラベル」



⑦ 「鯨食普及ポスター」

